

世界大戦終結 70 年、分断 70 年を迎えた 韓日平和陣営の課題

6・15 共同宣言実践南側委員会
常任代表議長 イ・チャンボク

こんにちは。今日ここに立つと、私が 1996 年に初めて訪日し、日本の進歩的な人たち、平和運動の人たちとお会いして、韓日共同の課題について討論したことを思い出します。

その時にお会いした方々に再びこの場でお会いすることができ、とても嬉しく思います。

2015 年、歴史的な曲り角に立つアジア

今年 2015 年は、アジア諸国の市民に深い意味のある年です。アジア全域を苦しめた日本帝国主義の侵略戦争が終わって 70 年、また朝鮮半島では分断 70 年となる年です。過去を振り返る契機でもあります。いまだ清算されない 70 年前の苦しみを清算するのか、再びその過ちを繰り返すのかという重大な曲がり角に立っているときでもあります。私たちの選択と団結によって、これからの数十年の運命が決められることでしょう。

現在、東アジアでは対決と緊張、和解と平和の要求がぶつかりあっています。数十年の間維持され続けてきた米国の覇権が世界的に弱まりました。米国の利害関係よりも自国の利害関係、共同体の利害関係がより強く噴出し、各地で動きが活発になっています。アジアにおいて冷戦的な対立を終わらせ、新たな平和体制の構築、互惠平等の国際関係を求める声が高まっています。韓国においては、金大中、盧武鉉の時代に不十分さが残るものの、南北間の和解と協力、東北アジアの協力に向かって努力を傾け、成果を上げてきました。しかし、米国の「アジアへの回帰」、安倍政権の「積極的平和主義」、李明博、朴槿恵政府の「同盟強化と対北強硬政策」などにより、東北アジアの軍事的葛藤と緊張は解決されず、むしろ激化している状況です。

平和が破壊されるなか、韓国では情報機関が大統領選挙に介入し、合法的な政党が強制解散させられ、国民が直接選んだ国会議員の資格が剥奪されるなど、民主主義が破壊されています。日本でも特定秘密保護法の制定など、国民の知る権利と国民による政策への監視・統制の権限が損なわれていると聞いています。国民の生存権が守られていないのは言うまでもありません。

戦後数十年、市民による努力で、わずかでも前進した民主主義と平和の価値が、再び暴力的に破壊され、私たちは軍事的対決と葛藤の渦に巻き込まれる危機に直面しています。この危機を克服し、新たな平和と協力の時代を開くのか、暴力に屈して民主、生存権、平和が破壊される状況が続けるのか。私たちはいま、その岐路にさしかかっているのです。

2015 年、分断 70 年を迎えた韓国社会の努力

韓国の市民社会は歴史的なこの課題を前に、分断 70 年の契機を活用し、南北関係の改善、朝鮮半島の平和体制の構築、東北アジアの平和協力を通じた和解と平和の大転換を迎えようと努力しています。日米韓三か国は北朝鮮の脅威を軍事政策の万能だとしていますが、本当の脅威の解消は和解と協力が実現されたときに可能であり、これは朝鮮半島の平和体制構築、平和的統一へと帰結するとき確かなものになります。

南北関係の悪化という流れのなか、私たち民間市民団体はこの 7 年間、北側の市民団体との接触、交流を十分に進めることができませんでした。政府があらゆる対話の窓口を封鎖したまま、強硬政策に没頭した結果です。しかし、自由な交流と出会いなしに和解と協力をするのは不可能なので、私たちは南北和解協力の象徴として、今年は必ず各界各層の出会いを成し遂げていこうと思っています。労働者はサッカー大会を推進し、大学生は光州で開かれるユニバシアード大会を契機に交流を進めています。南北共同宣言の 6 月 15 日、解放記念日、光復節の

8月15日には各界の人たちが1つに集まる大規模な民族共同イベントを計画しています。ちょうど2日前の2月26日、南北海外の実務接触が中国の瀋陽で行われ、互いの構想を交換し、共同の事業計画を確定しました。

私たちはこのような出会いと交流が今のままの状態、すんなり実現できるとは思っていません。李明博政府と朴槿恵政府は、言葉では南北交流を言いますが、5・24経済制裁措置を通じて経済協力も、民間交流も、人道的な支援も徹底的に遮断し、統制してきました。今年も年初から「民間交流積極推進」などと言いつつ、瀋陽での実務接触さえも不許可にしていきました。私たちは政府の許可をただ待っている訳にはいきません。私たちは市郡区、町内での統一の広場をつくり、平和を求める人たちと一緒に作る国際的な平和列車、全国各地からの平和大行進などを通じて、韓国社会の至る所で和解と平和の声を上げていきます。各地、各界から今年こそ政府が南北対話の機会を逃してはならないとの声を組織し、圧力を加えて正面から対抗していきます。

2015年、東アジアの平和のための提案

すでに私は東アジアの民衆が重大な曲がり角に立っていると述べました。この曲がり角で平和と和解協力の流れを作っていくためには、いくつかの課題がありますが、重要ないくつかを提案したいと思います。

- 1) 日本安倍政府の再武装と軍国主義的右傾化、歴史修正主義を阻止しなくてはなりません。
- 2) 米国の覇権中心主義とこれを支える軍事政策を拒否し、より幅広い平和協力を求めなければなりません。
- 3) 東北アジアの平和実現の核心的課題である朝鮮半島問題の解決のために、南北対話と和解、平和協定を実現しなければなりません。

私たちが直面しているこのような課題を解決するために私は昨年秋に日本を訪問し、日本の政界と市民社会の代表の方々に「(仮称)東アジア市民平和連帯」を提案しました。

「東アジア市民連帯」は次のような組織であればいいと思います。

- 1) 暴走する日米韓軍事同盟を実質的に制御するため幅広い団結が必要であるだけに、政界や市民社会がともに参加しなければなりません。
- 2) 名前だけの機構ではなく、長期的な交流と集まりを通じて互いの計画を共有し、共同の行動を決定、執行していくことで、連帯と団結を強化していかなければなりません。
- 3) 韓国と日本において第一歩踏み出し、北朝鮮や中国、台湾などを含めた本当の東アジア平和連帯へと進めていくべきでしょう。

これからよく話し合い、力をひとつにしながら、東アジア民衆の真の連帯を拡大し、強化して結実させていきたいと思います。

東アジアで軍事的対決が終わり、平和が実現されれば、世界平和の実現にも決定的な礎となるでしょう。私たちは重い荷を背負っているのです。

私は最近日本において、平和憲法を壊そうとする安倍政権に対抗し、政党や地域を乗り越え団結する努力が実を結んでいると聞いています。これまで分裂し、別々に進んできたあり方から抜け出し、「総がかり行動実行委員会」へと結集している日本の平和運動の努力に深い敬意を表しつつ、このような団結の動きがお互いを励まして刺激し、より大きな団結、韓日民衆の広い連帯へと結びつくことを期待しています。ともに連帯し、東アジアの冷戦の歴史を終わらせ、新たな和解、平和の歴史を切り開いていきましょう。

私も積極的に努力いたします。